

（アジ調だより）

『山本武利著作集』 刊行開始を言祝ぐ

『山本武利著作集』——メディア・宣伝・謀報の社会史（文生書院）の刊行が7月から始まりました。A5判全10巻、各560頁、8800円＋税（予価）。2028年に完成する予定の、大がかりなシリーズです。

記者として、政治宣伝の一研究者として、長年ご指導いただいている者から見た先生の仕事を紹介させていただきます。▼早稲田大名誉教授・一橋大名誉教授の山本先生は、メディア史の専門家として知られています。毎日新聞データベースに残る最も古い記事は、1981年8月に掲載された著書『近代日本の新聞読者層』（法政大学出版会）の書評です。『興亡史』的な従来の新聞史研究と異なり、新聞の投書欄に注目して、新聞が誰にどう読まれているかを描いた実証性を称賛しています。2000年代以降何度も記事になったのが、占領期に連合国軍総司令部（GHQ）の検閲対象になった国内出版物のコレク

ション、ブランク文庫です。GHQ民間検閲局（CCD）に勤務していたプランク博士の希望で米メリーランド大が保管していた資料を山本先生らがデータベース化し、日本の国会図書館が開館するまでの空白期を埋める占領期メディアの宝庫になりました。



▼近年取り組んでいるのが、陸軍中野学校をはじめとする戦前日本のインテリジェンス工作です。関連書が出版された際の2017年2月のインタビュー記事で、先生は「インテリジェンスはコミュニケーション研究の欠落した領域で、市民権を得なければならぬ」と語っています。12年1月には、自らが代表となってNPQ法人インテリジェンス研究所を設立しました。定期的に開催している研究会は68回を数えます。新たな道を切り開いてきた山本先生の研究は、メディア

史の一語では言い尽くせない広がりを持つと言えるのではないのでしょうか。▼第1回配本は、第7巻『米国の対日工作』Ⅱ写真。『日本兵捕虜は何をしゃべったか』（文藝春秋）や『ブラック・プロバガンダ——謀略のラジオ』（岩波書店）などを収録しています。著作集では単著20冊だけでなく紀要や学術雑誌への寄稿、書き下ろしの挿入も検討しているそうです。この夏85歳になった山本先生の精力的な研究活動を見るにつけても、多くの人に読んでもらえればと願うばかりです。（岸）

アジア時報

2025年(令和7年)9月1日発行

編集兼発行所 岸俊光 文芸春秋

印刷所 一般社団法人 法

〒100-8051

東京都千代田区一ツ橋 1-1-1 毎日新聞社内

電話 03(3213)2697 FAX 03(3214)5975

E-mail : ajicho@aacrc.or.jp

9月号 No.609

定価 610円(本体 556円)

9月1日発行

11-1-1 毎日新聞社内

03(3214)5975

ajicho@aacrc.or.jp

定期購読希望者は1年間7100円(送料1冊100円の10冊分を含む)を振替でお申し込み下さい。

振替口座 00130-5-87153